

第2期大網白里市地域公共交通計画の基本方針（案）について

1. 計画の位置づけ・背景・目的

●計画の位置づけと目的

・「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、大網白里市における、持続可能な地域公共交通に関する基本的な方針を定める、公共交通施策のマスタープランとなる計画。

●計画策定の背景

・「大網白里市地域公共交通計画（現計画）」の計画期間が、令和8年度末で満了となることから、現計画を引き継ぐものとして、「第2期大網白里市地域公共交通計画」を策定する。

2. 計画の区域及び対象、期間

●計画の区域：大網白里市全域

●計画の対象：鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー等

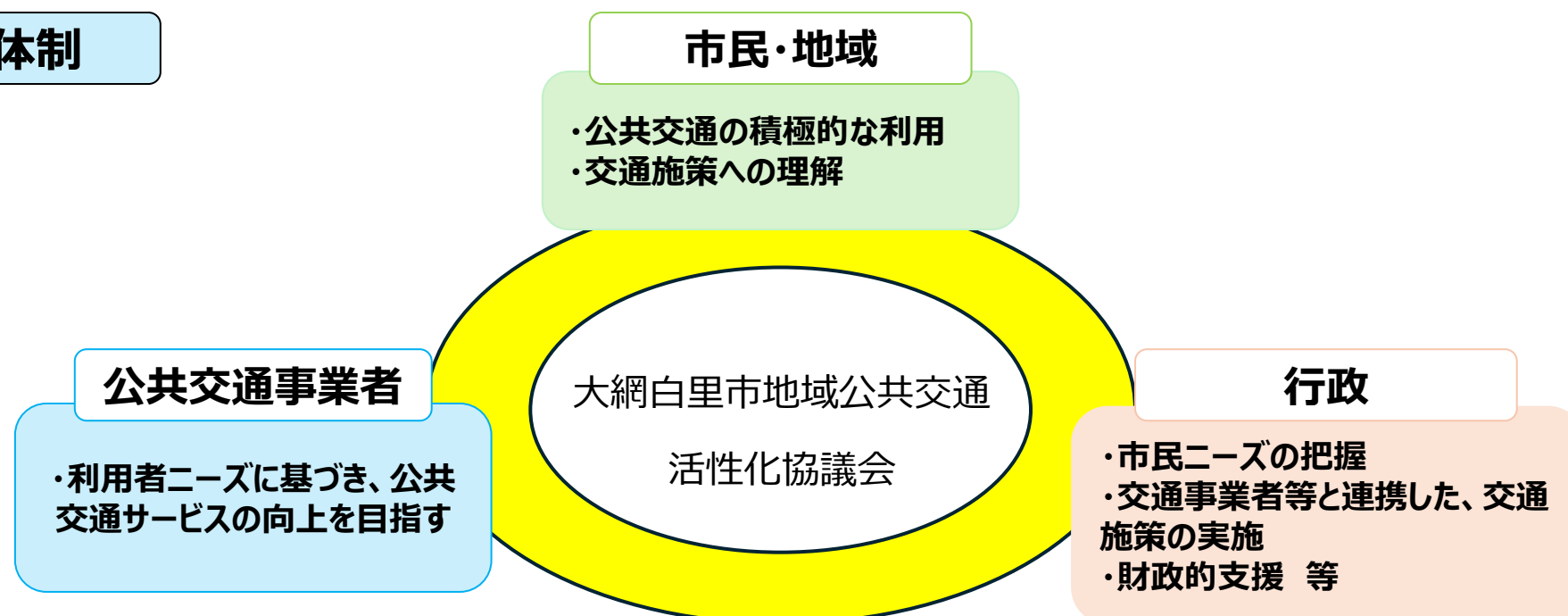
●計画の期間：令和9年度～令和13年度

根拠法令

・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律
関連計画

・大網白里市第6次総合計画 後期基本計画
第3節 誰もが快適に暮らせるまち【都市基盤の整備】

計画の実施体制



3. 現状の整理

○市民アンケート

- ・日常生活を送る上での主な移動手段として、自家用車と答えた人が多くみられましたが、今後、高齢化が進むにつれ、公共交通機関を必要とする人が増えることが予想されます。
- ・新たな交通施策として、「タクシーやバスの利用補助（割引）券」、「新たな路線バスまたはコミュニティバスの運行」を求める声が多くみられました。

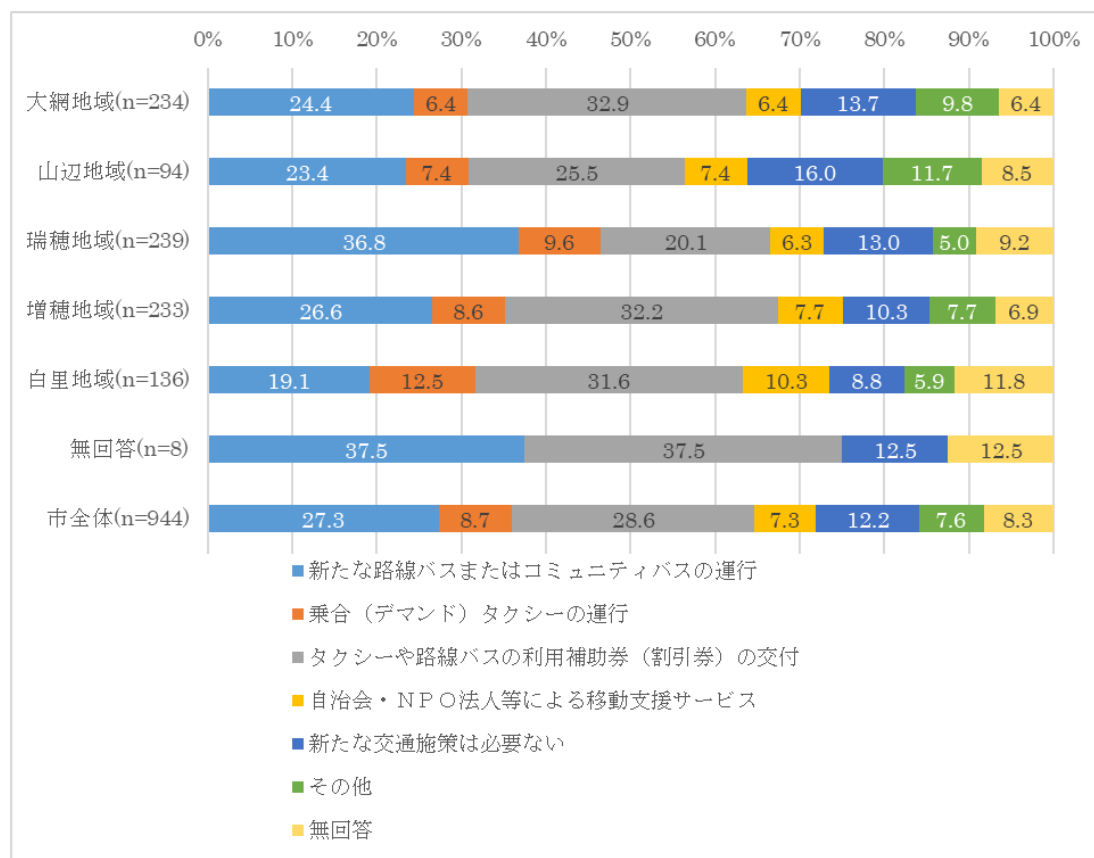
○バス利用者アンケート

- ・利用者の傾向については、大きな変化はなく、路線バスでは、現役世代の「通勤・通学」、コミュニティバスでは、高齢者の「買い物」利用が多くみられました。
- ・要望としては、ダイヤの増便、最終便の繰り下げ、運行情報案内の充実、運賃割引制度の実施等が多くみられました。

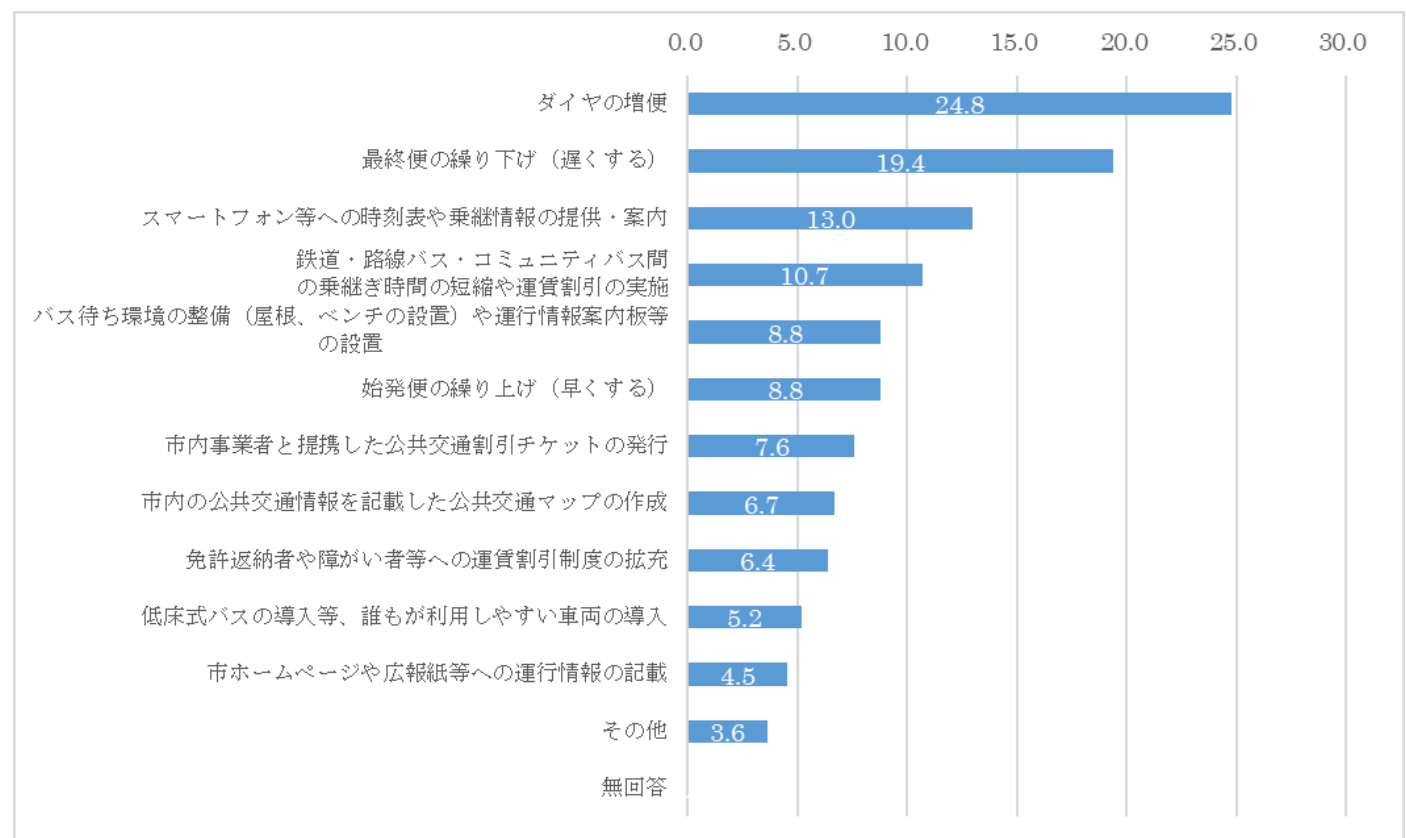
○事業者ヒアリングにおける課題

- ・乗務員不足に伴う路線網の維持、継続の困難化
- ・運行経費の増加による収益の悪化
- ・タクシー利用者の減少

導入した方が良いと思う交通施策



公共交通の利用促進に効果的だと思う取組



本市の現状

○本市の公共交通網

市西部に、JR外房線、東金線が通り、大網駅を起点に、路線バスが運行しています。

公共交通空白地域（バス停、駅から1km以上離れている地域）を解消するため、コミュニティバスを運行しています。

○公共交通空白地域について

コミュニティバスの運行により、市内の公共交通空白地域の大部分は解消しましたが、瑞穂地区、山辺地区、大網地区の一部では、空白地域が存在しています。

いずれの地区も、高齢化率が高くなっており、また、近くにスーパーや病院等もなく、高齢者等の日常生活における移動手段の確保について検討が必要です。

図1 地区別の高齢化率と公共交通空白地域

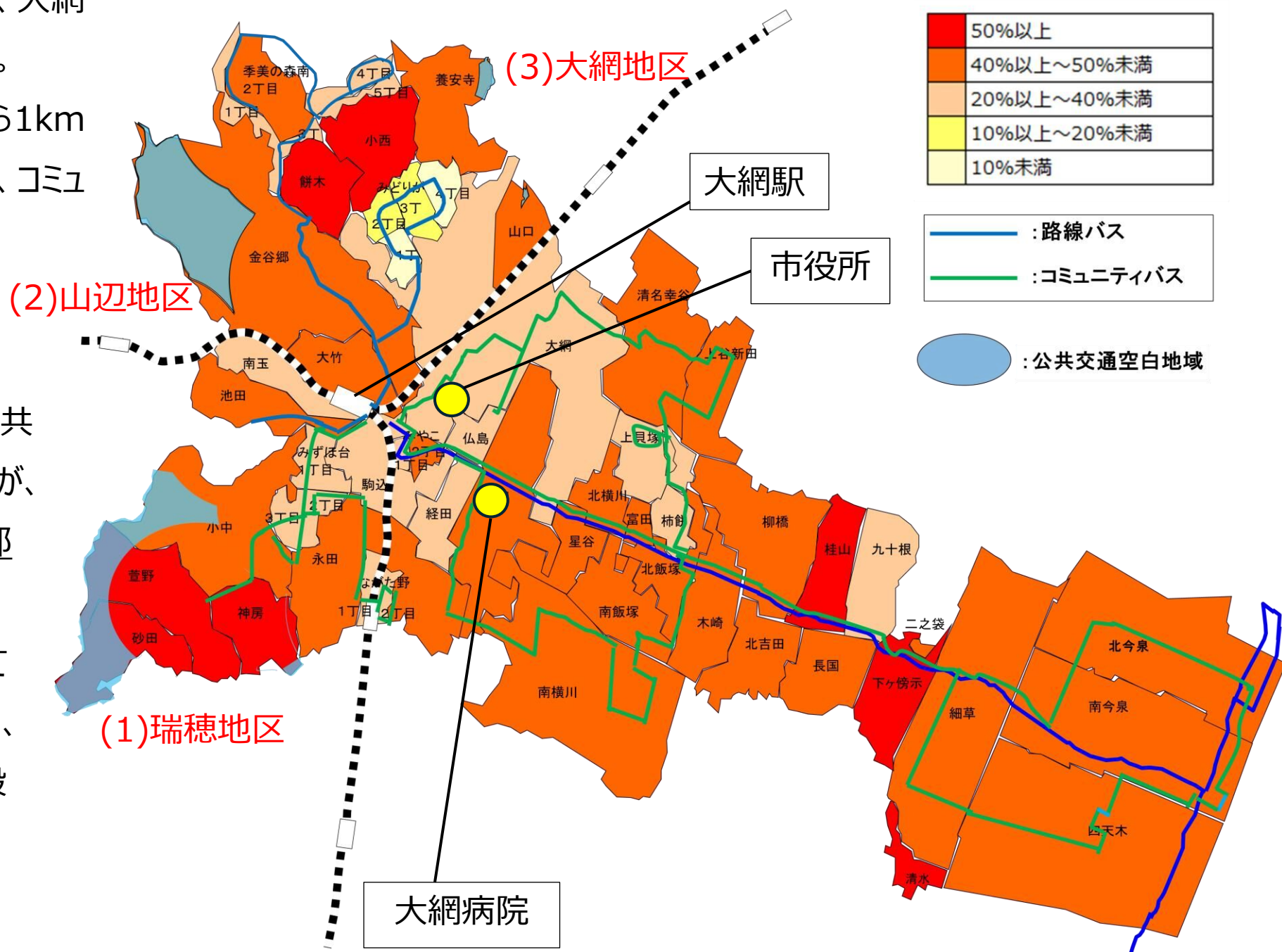
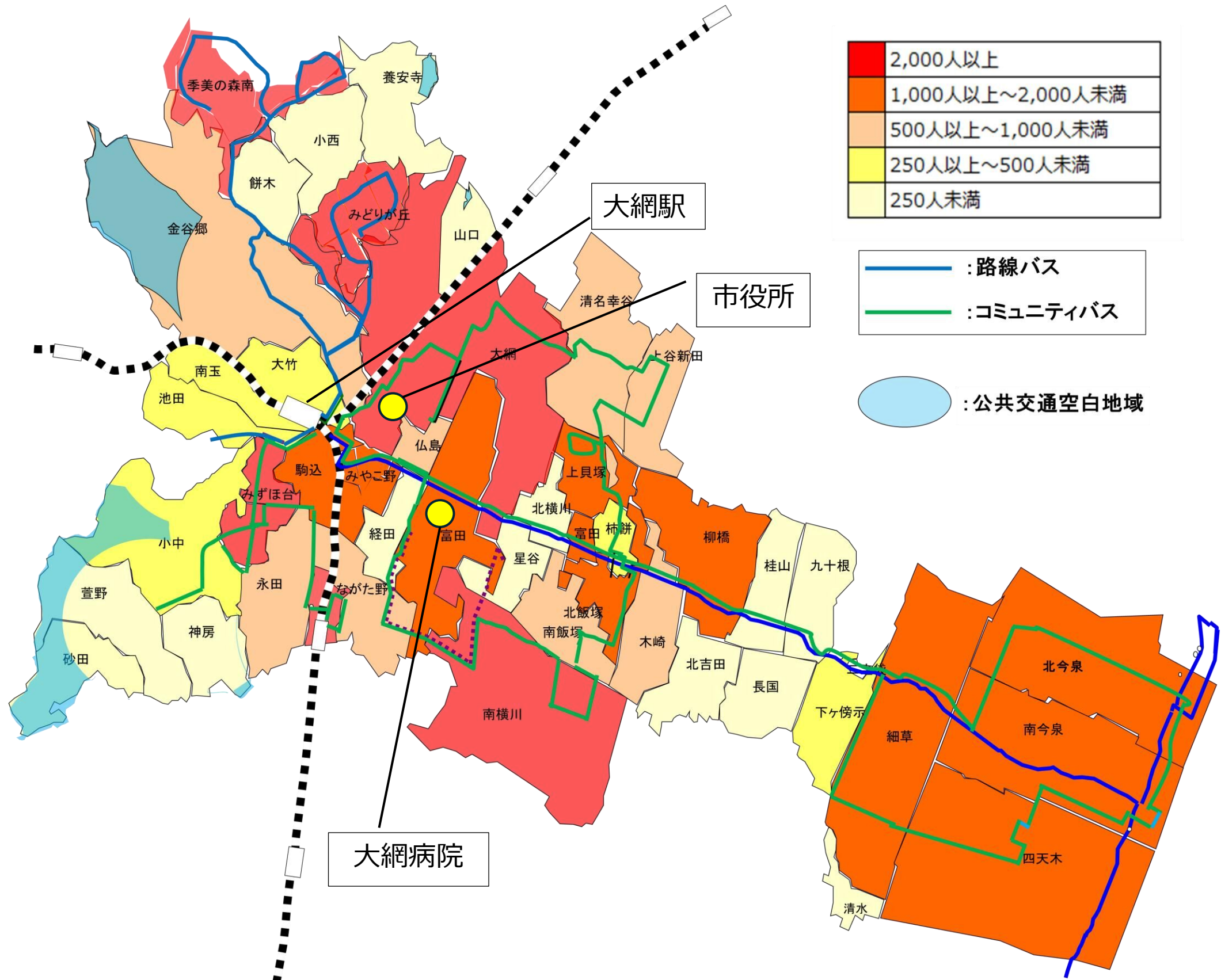


図2 本市の人口分布図と公共交通空白地域



第1期計画の達成状況

 ：未達成・検討中の項目

目標番号	事業名	内容	達成状況	
①	コミュニティバスの運行	コミュニティバスの運行を実施する。また、利便性向上のため、回数券等の導入を検討する。	○	回数券を令和4年11月に導入済み
	新たな交通手段の確保	市内の空白地域の解消等を目指し、新たな交通手段の導入を検討する。	○	令和8年4月より、瑞穂地区コミュニティバスの運行を開始した。
	タクシーの利用促進	タクシーの利用促進を図るため、周知等を行う。	○	市ホームページ等で実施中。
	高齢者外出支援事業 送迎バスの利用促進	市内整形外科の、患者送迎用バスを高齢者の移動手段として活用し、利用促進を図るため、周知等を行う。	○	継続して活用中。
②	鉄道の利用促進	鉄道の運行本数の増加やバリアフリー化等について、JR東日本に要望活動を実施する。	○	毎年実施中。
	路線バスの利用促進	市内を運行する路線バスの利用促進を図るため、ホームページ等で周知を行う。 また、小湊鐵道の「大網駅～白子車庫線・サンライズ九十九里線」は国庫補助金を活用しているため、関係者等で協議を行い、生産性の向上を図る。	○	市ホームページ等で周知を実施中。 また、毎年、利用者数増加等を図るため、千葉県バス対策地域協議会にて協議を実施中。
	高速バスの利用促進	運休や廃路線化が進む高速バスの利用促進を図るため、ホームページ等で周知を図る。	○	市ホームページで実施中。
③	交通結節点の機能強化	交通結節点である、JR大網駅において、行き先表示や時刻表等の案内を充実させ、乗継ぎの際の利用者の負担軽減を図る。 また、駅や観光拠点の周辺にシェアサイクルやキックスケーターなどの環境に優しい移動サービスを集約した貸出拠点（モビリティハブ）の設置・整備について検討する。	△	バス停にて、時刻表を掲示している。 モビリティハブの整備は、未実施。
	利用しやすい車両の導入促進	路線バス、コミュニティバス、タクシー車両について、国や県の補助制度を活用し、高齢者や障がい者等が利用しやすい車両の導入を促進する。	○	バリアフリー車両を導入済み。 (移動円滑化基準適用除外路線を除く)
④	運行情報提供の充実	利便性向上のため、「公共交通マップ」の作成を行う。 また、運行情報案内のデジタル化を図るため、バス停情報等のオープンデータ化を検討する。	△	公共交通マップは未作成。 グーグルマップ上でバス停情報等を公開し、オープンデータ化を実施中。
	商業施設等との連携サービス導入	地域の活力やにぎわいを創出するため、商業施設等と連携し、公共交通の利用に付加価値を付けた割引サービス等について検討します。	△	実施について検討中。
⑤	公共交通維持・確保に係る 市民意識の醸成	モビリティマネジメントの一環として、自治会行事等への参加、アンケート調査を実施することにより、住民が主体となって公共交通を支える仕組み作りを構築する。 また、地元企業の参画機会として、コミュニティバスへの広告掲載を継続します。	○	アンケート調査・地域サロン等において、モビリティマネジメントを実施している。 また、令和3年よりコミュニティバスに、有料広告を掲載中。

4. 本市の課題

整理した現状から、本市における課題を分類しました。

本市の地域特性や公共交通の課題

【地域特性】

- ・高齢化の進行により、免許返納者の増加が見込まれる
- ・独居老人世帯の増加が見込まれる
- ・少子化の影響により、路線バスのメインユーザー層である、学生の減少が見込まれる

【交通特性】

- ・一部の地域では、公共交通空白地域が存在している
- ・大網駅から大網病院までの区間で、複数路線が重複運行している
- ・駅前に駐車場が多く、通勤通学における移動手段としてバスを選ぶ人の割合が低い（バスの公共交通分担率が低い）

【公共交通の現状】

- ・バス運転手が不足している
- ・運行経費の増加が経営に与える影響が大きい
- ・人口減少が進む中で、利用者の急増は難しい

市民意見・事業者ヒアリング

【アンケート調査】

- ・運転手の不足
- ・バスのルートや乗り方などの情報発信が不足している
- ・以前に比べ、終バスの繰り上げや減便している
- ・利便性の改善（IC決済の導入、東京や千葉市への高速バスの運行等）

【事業者ヒアリング（バス・タクシー事業者）】

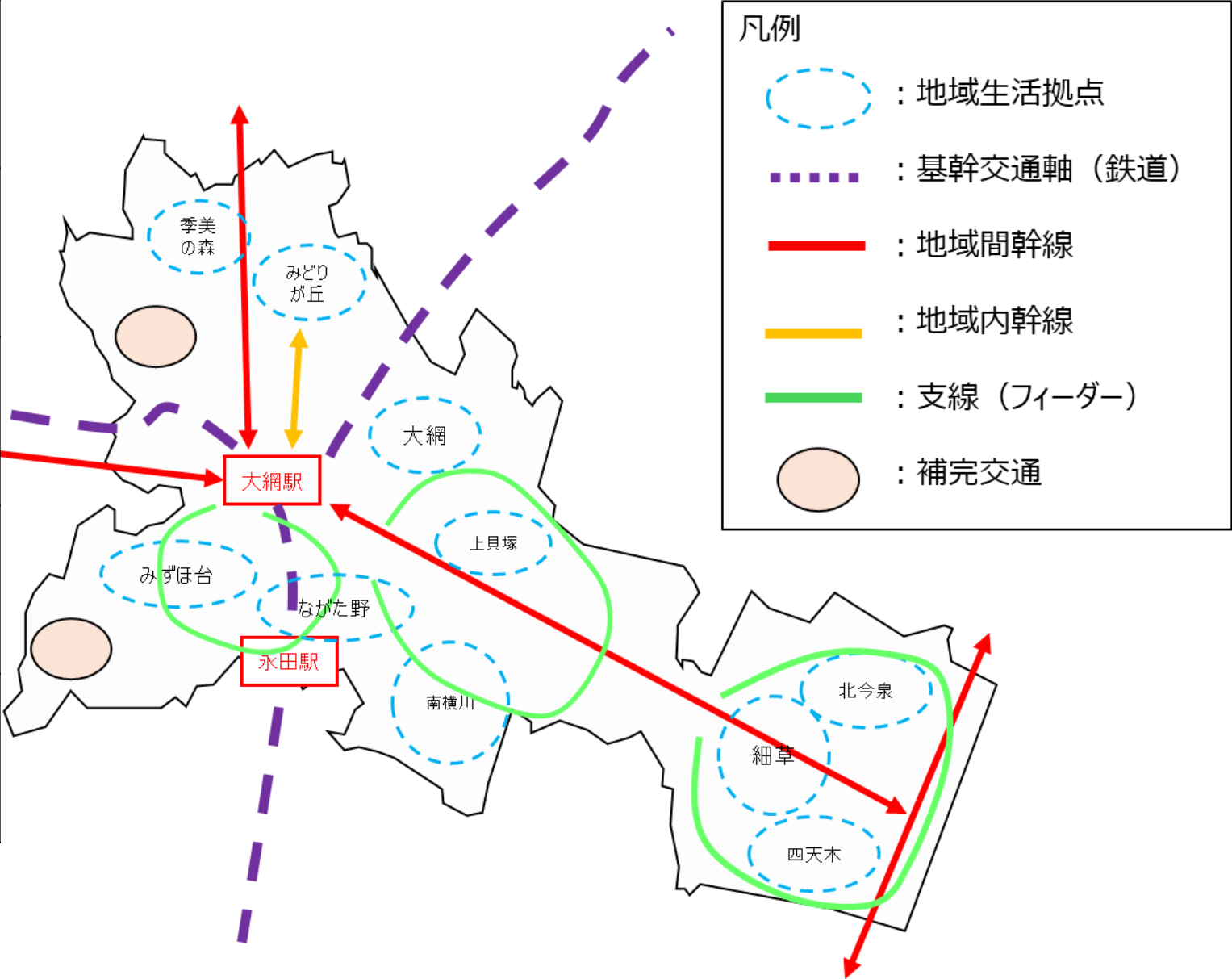
- ・運行経費の増加による収益の悪化
- ・タクシー利用者の減少

5. 本市の目指す公共交通の在り方

既存の公共交通サービスを維持しつつ、精査のうえ、地域特性に見合った公共交通網を再構築し、市民の利便性向上を図ります。
また、各交通手段の役割分担を明確にし、効率的な公共交通サービスの構築を目指します。

機能分類	公共交通機関	特性・役割
基幹交通軸	鉄道 (J R 外房線、東金線)	・都心部や市外など 比較的長い距離を結ぶ
地域間幹線	路線バス (市外移動)	・本市と隣接市町を結ぶ、 幹線交通
地域内幹線	路線バス (市内移動)	・市内の住宅地から駅、 商業施設等へのアクセスを 担う
支線	コミュニティバス 病院の送迎バス	・公共交通空白地域の解 消や、公共施設への移動 など、路線バスの補完交通
面的輸送	タクシー	・個別の移動ニーズに対し、 面的なサービスを提供する 役割を担う

図 4 本市における公共交通ネットワークの将来像



6. 基本方針と目標

課題をまとめ、次期計画の基本方針及び目標の（案）を作成しました。

課 題

少子化・人口減少による
利用者の減少

公共交通空白地域の未解消

高齢者等の移動手段の確保

運転手の不足による減便

経費の増加による運賃の値上げ、
減便等サービスの低下

広域的な移動手段の確保

運行情報発信の不足

バスの公共交通
分担率が低い

バス路線の重複運行による
運行効率の低下

基本方針（案）

基本方針 1

まちづくりとの連携を図った利便
性の高い公共交通網の構築

基本方針 2

公共交通間の連携や誰もが
利用しやすい環境の整備

基本方針 3（新規）

潜在的利用者層の掘り起こし
と利用促進

基本方針 4

多様な主体との連携による
持続可能な公共交通ネット
ワークの確立

次期計画における目標（案）

①バス路線網の最適化

路線バスとコミバスの共存を図るため、
重複区間の効率化を図ります。

②広域的なアクセスの強化

路線バス・高速バス・鉄道の利用促
進・充実を図り、市外との接続の強化を
目指します。

③公共交通空白地域への対応

残存する、公共交通空白地域に、新
たな交通モードや地域に適した補完交
通の導入を検討します。

④利用しやすいさの向上

乗継の改善を図るとともに、公共交
通の利用促進に向けた支援制度を検討
します。

⑤分かりやすい運行情報の提供

運行情報提供の充実を図ります。

⑥地域と共に支え合う公共交通の形成

多様な主体・交通資源（スクールバス
等）との連携・活用により、公共交通
の維持・確保を目指します。